

## 身体障害者福祉法第4条による別表（身体障害の範囲）

- 1 次に掲げる視覚障害で、永続するもの
  - (1) 両眼の視力（万国試視力表によって測ったものをいい、屈折異常がある者については、矯正視力について測ったものをいう。以下同じ）がそれぞれ0.1以下のもの
  - (2) 一眼の視力が0.02以下、他眼が0.6以下のもの
  - (3) 両眼の視野がそれぞれ10度以内のもの
  - (4) 両眼による視野の2分の1以上が欠けているもの
- 2 次に掲げる聴覚又は平衡機能の障害で、永続するもの
  - (1) 両耳の聴力損失がそれぞれ60デシベル以上のもの
  - (2) 一耳の聴力損失が80デシベル以上、他耳の聴力損失が40デシベル以上のもの
  - (3) 両耳による普通話声の最良の語音明瞭度が50%以下のもの
  - (4) 平衡機能の著しい障害
- 3 次に掲げる音声機能又は言語機能の障害
  - (1) 音声機能又は言語機能のそう失
  - (2) 音声機能又は言語機能の著しい障害で、永続するもの
- 4 次に掲げる肢体不自由
  - (1) 一上肢、一下肢又は体幹の機能の著しい障害で永続するもの
  - (2) 一上肢のおや指を指骨間関節以上で欠くもの、又はひとさし指を含めて一上肢の二指以上をそれぞれ第一指骨間関節で欠くもの
  - (3) 一下肢をリスフラン関節以上で欠くもの
  - (4) 両下肢のすべての指を欠くもの
  - (5) 一上肢のおや指の機能の著しい障害又はひとさし指を含めて一上肢の三指以上の機能の著しい障害で永続するもの
  - (6) 前各号に掲げるものの外、その程度が前各号に掲げる障害の程度以上であると認められる障害
- 5 心臓、じん臓又は呼吸器の機能の障害その他政令で定める障害で永続し、かつ、日常生活が著しい制限を受ける程度であると認められたもの

### 身体障害者福祉法施行令

（政令で定める障害）

第36条 法別表第5号に規定する政令で定める障害は、次に掲げる機能の障害とする

- 1 ぼうこう又は直腸の機能
- 2 小腸の機能
- 3 ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能
- 4 肝臓の機能